

主 題：今しかできないこと

聖書箇所：マタイの福音書 28章18－20節

私たちの生活において、これは“今しかできない”ことだと思い込んで行動することはよくあることですが、信仰生活ではどうでしょうか？今しかできないことを覚え、すべてにまさる神の祝福＝永遠に価値のあるもの＝を求めてそれに従っているのでしょうか。

今日の聖書の箇所はイエス・キリストの大宣教命令とされているところです。ここから二つのことを学んで行きます。それによって私たちがさらに神に従順に従ってゆく決心ができるように願います。一つは私たちはこの命令をどのように達成していくか、そして、この命令を行なってゆくことによって私たちの歩みが変わられてゆくようにということ、もう一つは、なぜこの命令を行なってゆくべきなのか、です。その前に、この大宣教命令とは何かを見ましょう。

この命令は伝道しなさいという命令でしょうか？この19、20節には四つの命令を表わす動詞があります。行って、弟子としなさい、バプテスマを受け、教えなさい、と。しかし、原文では一つだけです。それは、「弟子としなさい」です。教師と弟子の関係は、弟子は教師である人に従順に従って行きます。その権威に従うのです。弟子とすることは、イエス・キリストの教えを完全に受け入れ従ってゆく決意を持つ者へとすることです。弟子には信じることと学ぶことが求められます。福音を語り未信者を教会に連れてくるのが命令ではありません。イエス・キリストの命令は「弟子をつくりなさい」です。

1. 私たちはこの命令（弟子をつくってゆく）をどのように達成していくか

(1) 私たちが出てゆくことによって 19節

わたしたちは人が教会に来てくれることを願いますが、イエスはあなたが出て行きなさいと言われます。救われたすばらしさを伝えるために出て行きなさいと。イスラエルの民はそのことを神から命じられ、その目的のために選ばれたのですが、彼らはそれを拒んだために、この命令は私たちクリスチャンに与えられました。出て行って、救い主を伝えるのです。この「あなたがたは行って」とは、あなたがたはもう行くことになっているのだから、と行くことが前提となっています。そして、これは受身ではなく能動的な行動であるべきだといえます。福音を語る機会を積極的に求めることです。

(2) バプテスマを受けることによって 19節

弟子とする方法の一つがバプテスマを受けることです。（もう一つは教えることです）。この当時の人々はバプテスマをどのように理解していたでしょう？a) 水によるきよめ、これは律法に定められていることで、汚れたものに触れたとか、罪からの浄化のためです。b) 異教徒がユダヤ教に改宗するときの儀式、これは、割礼といけにえをささげること、バプテスマです。c) ヨハネのバプテスマ、悔い改めのバプテスマといわれていますが、それだけではありません。ヨハネは神の国が近づいたといい、道を整える働きをしました。自ら神の王国に入るため罪を悔い改めます。これらの三つに共通していることは「証明」です。a) は自分がきよいと証明します。b) はユダヤ人であると証明します。c) は神の国に入る準備をしたものであることの証明です。父、子、聖霊なる神を信じること、イエス・キリストを信じ救われ、そして、バプテスマによってそれを公にするのです。神に属することを証明するのです。このように人々を導くこと、これが伝道です。1ペテロ3:15「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」とある通りです。

(3) 教えることによって 20節

伝道と教えることが教会に与えられている働きの二つの柱です。救われた者たちは従順の生涯へと導かれています。そのためには、教えられてゆくことが必要です。従順とはどういうことなのかを理解するために…。信じることと学ぶこと、それが必要です。「わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、」とイエスは言われます。使徒11:26「…そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。」、マタイ7:21「…天におられるわたしの父のみこころを行なう者が入るのです。」、このようにキリストの弟子とされた者は、「教える」ことができるはずですが。それぞれの立場で、親は子どもに、年輩の者は若い人たちに、…。そして、教えるためにみことばを学ぶことが大切です。教える者の生き方が問われます。それは従順であることです。

2. なぜ、この大宣教命令を行なうべきなのか。

(1) 私たちの主権者である主が命じておられるから 18節

19節のはじめに、「それゆえ」とあります。これは18節を受けています。いっさいの権威が与えられていますと。その権威のゆえに、といます。すべての権威をもつイエスが命じるから従いなさいと。

(2) イエスご自身がともにいてくださるから 20節

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」 私たちが弱い者であると分かっておられるから、イエスは助けると言われるのです。このマタイの福音書のはじめに「その名はインマヌエルと呼ばれる。」(1:23)とあり、これは「神は私たちとともにおられる」という意味であると書かれています。そして、一番最後にこれが繰り返されているのです。イエスはこの約束を果たしておられます。聖霊の内住によってクリスチャンといつもともにいてくださるからです。

ヨハネ20:21には「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」とあります。また、イエスさまはご自身の祈りであるヨハネ17章で、「あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。」(17:4)と言われました。私たちがこの宣教命令を行なってゆくとき、主が栄光を受けられるのです。イザヤ43:7「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」

今しかできないこと、それは人々にキリストを伝え、このイエス・キリストに従ってゆくように教えることです。